

「栗山新時代」の創生を目指して！



栗山町長 佐々木 学

あけましておめでとうございます。
町民の皆様には、平成31年の輝かしい新春をご家族お揃いで健やかに迎えられることと、心からお慶び申し上げます。

昨年4月、栗山町の第8代町長として町政をお預かりし、早くも9カ月が経過いたしました。

この間、6月の大阪北部地震や7月の西日本豪雨、道内では9月の台風21号、そして胆振地方中東部を震源とする地震が相次いで発生し本町でも大きな被害を被るなど、日常生活を脅かす大規模災害が多発いたしました。

基幹産業の農業では、春先から農作業はおおむね順調に進んだも

の、6月からの低温と日照不足が影響し、水稲では8年ぶり、畑作物も総じて不作となるなど、自然災害の脅威に見舞われた試験の一年となりました。改めて、防災・減災対策の重要性を再認識したところであり、町民の皆様の安全・安心な生活を守るための対策強化に、より一層努めてまいります。

さて、世界経済の緩やかな回復を背景に、景気拡大が高度成長期の「いざなぎ景気」を超え戦後2番目の長さとなる一方、地方では実感できない状況が続いており、加えて本格的な人口減少社会の局面を迎えた中で、地域経済への深刻な影響が懸念されております。

このような厳しい状況を打破し、まちの将来像である「誰もが笑顔で、安心して暮らすまち」実現のため、平成31年度から向こう4年間のまちづくりを具体化した「第6次総合計画後期実施計画」を昨年末に町議会へ提案し、慎重審議をいただいております。

昨年のまちづくり懇談会では、直面する町政課題として、栗山赤十字病院の改築、駅前商店街の活性化、栗山高等学校・北海道介護福祉学校・スキー場存続問題を提起させていただきました。今後、まちの将来を見据えた議論を重ね、一つひとつ責任をもって方向性を判断してまいります。

私がお約束した、栗山をもっと笑顔にする「5つの旗印」のもと、「栗山新時代」の創生を目指し、職員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、新しい一年が町民皆様にとりまして、希望に満ちた明るく健やかな年でありますよう心から祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

あけましておめでとうございます。

輝かしい平成31年の新春を、町民の皆様とともに迎えられることを、町議会を代表して謹んでお慶び申し上げます。

また、日頃より、議会運営に対して多くのご支援とご協力をいただき、深く感謝を申し上げます。

昨年は、9月5日の記録的な暴風が観測された台風21号、そして翌6日早朝に発生した胆振東部地震により、町内はもとより全道各地に甚大な被害がもたらされました。被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早い復興をお祈りいたします。

これらの自然災害を通して、議

会が、また議員がどのように災害対応にあたるべきか、改めて議会BCP（業務継続計画）の重要性と策定の必要性を痛感したところであります。

さて、昨年12月、町の最上位計画である「第6次総合計画基本構想及び基本計画」の改定案が議会に提案されました。今、わが国は世界に類のない超高齢少子社会を迎え、人口減少が進行しています。

国は、2025年の超高齢社会像を表したのに続き、人口減少社会における自治体像を示した2040構想を提起しました。

こうした情勢を踏まえ、今後4年の計画期間はもとより次

期計画、さらには本町の将来の礎となる重要な意味を持つものになると考えております。

基本構想が掲げる「誰もが笑顔で、安心して暮らすまち」の実現に向け、議会基本条例の趣旨にのっとり、情報公開、住民参加、自由闊達な討議を進め、次代の子どもたちに対し責任ある議決を目指します。

本年4月には、町議会議員選挙が執行されます。当議会は、前回の選挙より議員定数を従前の1名減の12名といたしました。結果は無投票となり、議会として、責任の一端を重く受け止めております。

議員のなり手不足は、全国的に問題となっておりますが、多くの町民の皆様は議会、議員の活動に関心を持っていただくとともに議員を志していただける存在感のある活動を目指してまいりたいと決意を新たにしております。

終わりに、この一年が町民の皆様にとって健やかで希望に満ちた年でありますよう心からお祈りを申し上げます、新年のご挨拶いたします。

次代の子どもたちに対し責任ある議決を



栗山町議会議長 鷗川 和彦

謹賀新年

本年も
よろしくお祈りします

町長 佐々木 学
副町長 三浦 匠
ほか職員一同

議長 鷗川 和彦
副議長 大西 勝博
議員 友成 克司
檀崎 忠彦
佐藤 則男
重山 雅世
置田 武司
大井 賢治
千葉 清己
土井 道子
三田 源幸
藤本 光行

◆農業委員会
会長 吉田 寿栄
同代理 小川 信一
◆監査委員 谷田 進太郎
大井 賢治

◆教育委員会
教育長 南條 宏
同代理 湯地 定暁
◆選挙管理委員会
委員長 村上 哲
同代理 砂田 正樹
◆公平委員会
委員 坂口 由紀子
中川 昇
越前谷 徹

◆国民健康保険運営協議会
会長 北 輝男
同代理 橘 一也

◆都市計画審議会
会長 梶澤 勝則
同代理 檀崎 忠彦

◆社会教育委員
委員長 藤井 吉美
副委員長 小川 真寿美
副委員長 永池 英彦
◆スポーツ推進委員
委員長 岡山 典弘
副委員長 永池 英彦





平成30年第6回栗山町議会定例会で次の議案が審議されました。(12月11日開会)

議案

▼**台風21号倒木事故に係る和解及び損害賠償の額の決定について**

台風21号に伴う強風により、本町所有の台山共同墓地敷地内の樹木が倒れ、相手方が所有する墓石にそれぞれ損害を与えたことから、修繕相当額を賠償することで和解するもので、損害賠償の総額は524万8584円です。

▼**平成30年度栗山町一般会計補正予算(第6号)**

歳入歳出予算に2億4011万7千円を追加し、総額を88億8187万1千円とするもので、主な内容は、ふるさと応援

基金積立金の追加等に係る補正です。

▼**平成30年度栗山町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)**

歳入歳出予算に1472万9千円を追加し、総額を16億6257万9千円とするもので、主な内容は、療養給付費等負担金の追加等に係る補正です。

▼**平成30年度北海道介護福祉学校特別会計補正予算(第4号)**

歳入歳出予算に38万9千円を追加し、総額を1億2470万4千円とするもので、内容は、女子学生寮の給水設備取替修繕に係る補正です。

▼**平成30年度栗山町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)**

歳入歳出予算から183万3千円を減額し、総額を2億1331万6千円とするもので、主な内容は、後期高齢者医療保険基盤安定負担金の確定に伴う補正です。

▼**平成30年度栗山町水道事業会計補正予算(第2号)**

水道事業の収益的収入に299万2千円を追加し、総額を3億9667万円とし、収益的支出に285万円を追加し、総額を3億9932万1千円



とするもので、補正の内容は平成30年7月9日に発生しました上水道濁水事故に係る町の損害額が確定したことに伴う、相手方からの損害賠償金に係る補正です。

▼**平成30年度栗山町下水道事業会計補正予算(第3号)**

下水道事業収益的収入に125万6千円を追加し、総額を4億7844万8千円とし、収益的支出に708万2千円を追加し、総額を4億8439万2千円とし、特定環境保全公共下水道事業の収益的支出に150万7千円を追加し、総額を7287万8千円とするものです。

▼**職員の給与に関する条例の一部を改正する条例**

▼**栗山町議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例**

▼**特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例**
以上3件は、平成30年8月の人事院勧告において給料などを引き上げる勧告がなされたことから、関係部分の条例を改正するものです。

▼**栗山町ファアール・森観察飼育舎条例を廃止する条例**

平成3年に国蝶オムラサキの保護・育成を目的に設置され、町内外の多くの方々に利用され

てきましたが、その機能をふれ

あいプラザに移転・統合し、新たに「ふるさといきもの里オムラサキ館」を整備したことから、今年度末をもって施設を廃止するものです。

▼**道央廃棄物処理組合規約の一部変更**

本町が加入する道央廃棄物処理組合におきまして、経費の支弁の方法を変更することから、地方自治法第286条第2項の規定により、道央廃棄物処理組合規約を変更するものです。

▼**公平委員会委員の選任について**

公平委員会委員として、越前谷徹氏(中央1)が同意されました。任期は平成31年1月1日から平成34年12月31日までの4年間で、4年間は、ふるさと応援

▼**監査委員の選任について**

監査委員として谷田進太郎氏(錦3)が同意されました。任期は平成31年1月1日から平成34年12月31日までの4年間で、4年間は、ふるさと応援

▼**固定資産評価審査委員会委員の選任について**

固定資産評価審査委員会委員として、金岩和恵氏(中央2)が同意されました。任期は平成30年12月22日から平成33年12月21

日までの3年間です。

▼**教育委員会委員の任命について**

教育委員会委員として月輪淳裕氏(角田)が同意されました。任期は平成30年12月10日から平成34年12月9日までの4年間で、4年間は、ふるさと応援

▼**栗山町第6次総合計画基本構想及び基本計画の改定について**

前期実施計画の検証やこの間における社会経済情勢の変化などを踏まえた中で、まちづくりの基本目標のうち、重点政策方針における政策課題や重点的に実施する施策群、分野別政策の基本方針、町財政の中長期試算など、一部内容の見直しを行うもので、本件は、栗山町中長期財政問題等調査特別委員会へ付託されました。

諮問

▼**人権擁護委員の推せんについて**

人権擁護委員として井上善晴氏(松風3)、諏訪英敏氏(中里)が同意されました。任期は平成31年4月1日から平成34年3月31日までの3年間です。



JR 苫小牧駅前広場に、冬の夜空を彩るイルミネーションが新しく誕生します。期間中は、さまざまな楽しいイベントを開催。ぜひ、この機会に JR 室蘭線を利用して、とまこまいイルミネーションを見に行こう！

【場 所】 JR 苫小牧駅南口・駅前広場
【期 間】 2月14日(木)まで
【時 間】 16:00～23:00
※詳しくは、とまこまいイルミネーションで検索してください。

【問い合わせ】

町経営企画課地域政策グループ ☎ 73-7502

町民皆さんの声をお寄せください

鉄道を“残す”ためには、特に沿線に暮らす町民皆様のご理解とご協力が不可欠です。皆さんの JR 室蘭線の利用促進策に関するアイデアやご意見をお寄せください。

【提出方法】 郵送、ファックス、Eメールまたは持参(様式は問いません)

〒069-1512 栗山町松風3丁目252番地
栗山町経営企画課地域政策グループ 宛
FAX 72-3179
Eメール tiikiseisaku-g@town.kuriyama.hokkaido.jp



皆さんの声を町政に

まちづくり懇談会

佐々木学町長との「まちづくり懇談会」が、10月31日から11月13日までの日程で町内25会場で開催されました。集まった町民は延べ271人。栗山町第6次総合計画後期実施計画策定についての質問・意見、現在町が直面する地域課題について懇談しました。



開会にあたり佐々木町長からのあいさつ

栗山赤十字病院

質疑 ①現在の場所で日赤を建替える予定なのか。駅周辺など、交通の利便性を考慮し検討すべきでは。

質疑 ②日赤を建替えても、通院者は増えるのか。町民負担もあるのであれば、現状の課題を十分踏まえ、検討を進めてほしい。

回答 日赤の建替えは決まったことではないが、耐震化の問題もありまちの重要課題である。場所の問題も含め、病床規模や財政負担など、本町にとって最適な医療機関となるよう、さまざまな角度からスピード感をもって、結論を出していきたい。

質疑 栗山高校について、国際感覚を養う教育に特化するための英語学科や、IT技術の専門課程など、普通科ではなく特殊な専門課程を設置し、生徒を募集していったらどうか。また、介護福祉学校との連携を強化してはどうか。

回答 栗山高校と介護福祉学校の存続問題は、町の大きな課題である。例えばの話であるが、栗山高校の1クラスを福祉の専門課程とし、高校の3年間と介護福祉学校の2年間を合わせた5年間で福祉・医療の専門知識を学び、複数の国家資格を取得できるようなこ



栗山高等学校・北海道介護福祉学校の存続

とができないかと考えている。今後、町民による栗山高校の魅力づくりを具体的に検討する組織が立ち上がるので、皆さんと議論を深めていきたい。

栗山町スキー場の存続

質疑 ①町スキー場について は、以前から使用できなくなれば廃止という話も出ていた。近隣のスキー場を利用するのも一つの手ではないか。

質疑 ②町スキー場について、私は「無くてはならない施設」だと考える。今年になって中止ということだが、そのような行政の

やり方は理解できない。新町長のアイデアであらゆる方法を考えてほしい。寄附などでお金を集めるなど良案を期待している。

回答 スキー場については、歴史もあり、教育の面からも冬期間の重要な施設と認識している。施設に思い入れのある方も多く、まちづくりの大きな視点で、関係者、町民と議論を尽くしたうえで判断したい。



北海道胆振東部地震

質疑 今回の地震で、あらためて情報伝達の必要性を強く感じた。町では平成34年度を目標に、コミュニ

回答 今回の地震では、特に住民への災害情報伝達の課題が浮き彫りとなった。町内会・自治会長の協力もいただいたが、全ての住民に避難所開設状況などの情報を早く正確に伝えることができなかった。コミュニティFM放送局について平成34年度の開局に向け、準備を進めていきたい。

